



# 平成25年度音楽資料・情報担当者セミナー

## 国立国会図書館の所蔵する 音声・映像記録メディアの現状と利用環境などについて

2013年9月6日

国立国会図書館

利用者サービス部音楽映像資料課

鈴木三智子

## はじめに(本日のテーマ)

- ・ 当館が所蔵する音声・映像記録メディアと  
利用提供
- ・ 保存のための取り組み  
～ アナログレコード～
- ・ 今後の課題について



# I. 当館が所蔵する音声・映像記録メディアと 利用提供

## 0. 音声・映像記録メディアの収集方法



- ・(主に)納本による収集

音声記録メディア	所蔵点数 約68万点
----------	------------

映像記録メディア	所蔵点数 約29万点
----------	------------

- 内容はジャンルやコンテンツを問わないコレクション

# 1. 再生できるメディア：様々な媒体について

## 音声記録メディア



- (1) アナログレコード
- (2) フィルムレコード(ソノシート)
- (3) カセットテープ
- (4) CD (直径8cm、12cm)
- (5) MD
- (6) DVD-AUDIO、SACD

# 音声記録メディア (1) アナログレコード

SPレコード (直径約25、30cm)

所蔵: 約1万6千点

- 昭和30年代まで主に流通
- シェラック(カイガラムシの分泌する天然樹脂)製で  
割れやすい特徴
- 78回転
- 片面最大4分30秒再生可
- 国内では1907年  
(明治40年)から生産開始



# 音声記録メディア (1) アナログレコード

LPレコード(直径約25、30cm)

所蔵:約17万5千点

- 1951年(昭和26年)に国内で初めて販売
- ポリ塩化ビニール製
- 33 1/3 回転
- 片面約30分まで収録可
- 長時間再生できるので、LP (long play) に。SP (standard play)



# 音声記録メディア (1) アナログレコード

- EPレコード(直径約17cm)  
所蔵:約10万点
- 1954年(昭和29年)に  
国内で生産開始
- 45回転
- 片面約5分まで収録可
- ドーナツ盤の愛称



# 音声記録メディア

## (2) フィルムレコード(ソノシート)

(直径約17cm)

所蔵:約2,700点

- 塩化ビニール製の薄くやわらかいレコード
- 音質や耐久はレコードに劣る
- 非常に安価で大量生産  
しやすく、雑誌の付録として広く流通  
(1960年代の音楽雑誌/  
1970年代の子ども向け雑誌)
- 現在は電子資料室で提供



# 音声記録メディア (3) カセットテープ

所蔵：約12,890点

出版されたカセットテープ(約10,000点)

👉 現在は電子資料室で提供

- SPレコードから媒体変換したカセットテープ(約1,400点)
- SPレコード約10,000枚のメディア変換事業を1975年～1989年に実施、作成。  
一巻に、約6～7枚のSPレコードを収録。

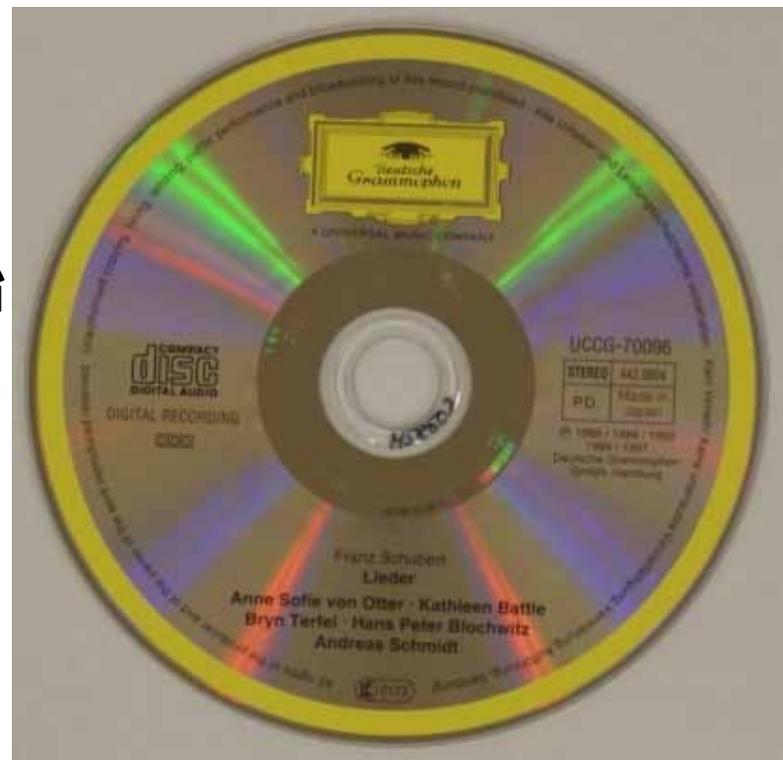
フィルモンレコードから  
媒体変換したカセットテープ(9点)



# 音声記録メディア (4) CD

所蔵: 約32万6千点

- 音声記録用の光ディスクにデジタルデータを記憶したもの
- 直径12センチは約74分、  
8センチは約22分収録可
- 1982年に国内で販売開始



# 音声記録メディア

(5) MD

所蔵：約1,250点



(6) DVD-AUDIO、SACD

所蔵：約300点

DVD-AUDIO 約180点、SACD 約120点



# 1. 再生できるメディア: 様々な媒体について

## 映像記録メディア

- (1) ビデオカセットテープ (VHS)
- (2) レーザーディスク (LD)
- (3) CDグラフィックス (CD-G)
- (4) CDビデオ (CD VIDEO)
- (5) ビデオシングルディスク (VSD)
- (6) ビデオCD (VCD)
- (7) DVD
- (8) ブルーレイディスク (Blu-ray)

# 映像記録メディア (1)ビデオカセット(VHS)

所蔵：約1万5千点

- テープとリールを一つのカセットに納めたもの
- 1976年家庭用に開発
- 当館には定期刊行物や、本の付録としてのVHSも
- 再生機器を生産している会社が現在一社のみ

👉 今後の閲覧環境の  
維持が課題・・・

機器の修理が困難なため  
再生環境が現存するうちに  
至急の対応が必要



# 映像記録メディア(2)レーザーディスク(LD)

所蔵：約18,900点

- 直径30cmの光ディスクで両面記録、最大2時間の録画が可能
- 1981年～90年代前半まで流通
- DVDの普及で2007年に生産終了
- LDプレーヤーも2009年生産終了



# 映像記録メディア：各種ビデオディスク



## (3) CDグラフィックス (CD-G) 所蔵：32点

- CD に静止画や文字を記録し、音楽にあわせてテレビ画面に表示できるようにしたもの
- 当館資料のほとんどがカラオケ
- 音楽を聞きながら静止画像を視聴できる

## (4) CDビデオ ( CDV ) 所蔵：14点

- オーディオパートにデジタルの音声情報を最大20分、ビデオパートに最大5分のアナログの映像情報を収録
- 資料サンプル：BOOWYの『マリオネット』(当館請求記号：YL315-33)  
内容細目「AUDIO PART (1)Runaway train・・・  
VIDEO PART (5)Marionette. 」

# 映像記録メディア：各種ビデオディスク



## (5) ビデオシングルディスク(VSD) 所蔵：91点

- CDビデオの5分間の映像部にビデオ映像のみを収録し、オーディオCD部分を収録しなかったもの

## (6) ビデオCD (VCD) 所蔵：99点

- ビデオCD(VCD)は、CD-ROMに動画や音声などを記録し、専用のプレーヤ/パソコンで再生
- 資料サンプル：映画『スタンド・バイ・ミー』（当館請求記号：YL341-50）  
形態「ビデオディスク 2枚（85分）：VCD.」
- カラオケ資料もあり

# 映像記録メディア (7) DVD

所蔵：約84,700点

- 1996年に国内初のソフトが販売された
- 現在広く流通する映像記録メディア



# 映像記録メディア (8) ブルーレイディスク

所蔵：約1,900点

- DVDの約5倍の記録容量
- 世界初のブルーレイディスクプレーヤーは2003年ソニーから発売された
- H20年度以降、納入の伸び率は毎年2倍に



## 2. 利用提供の方法について

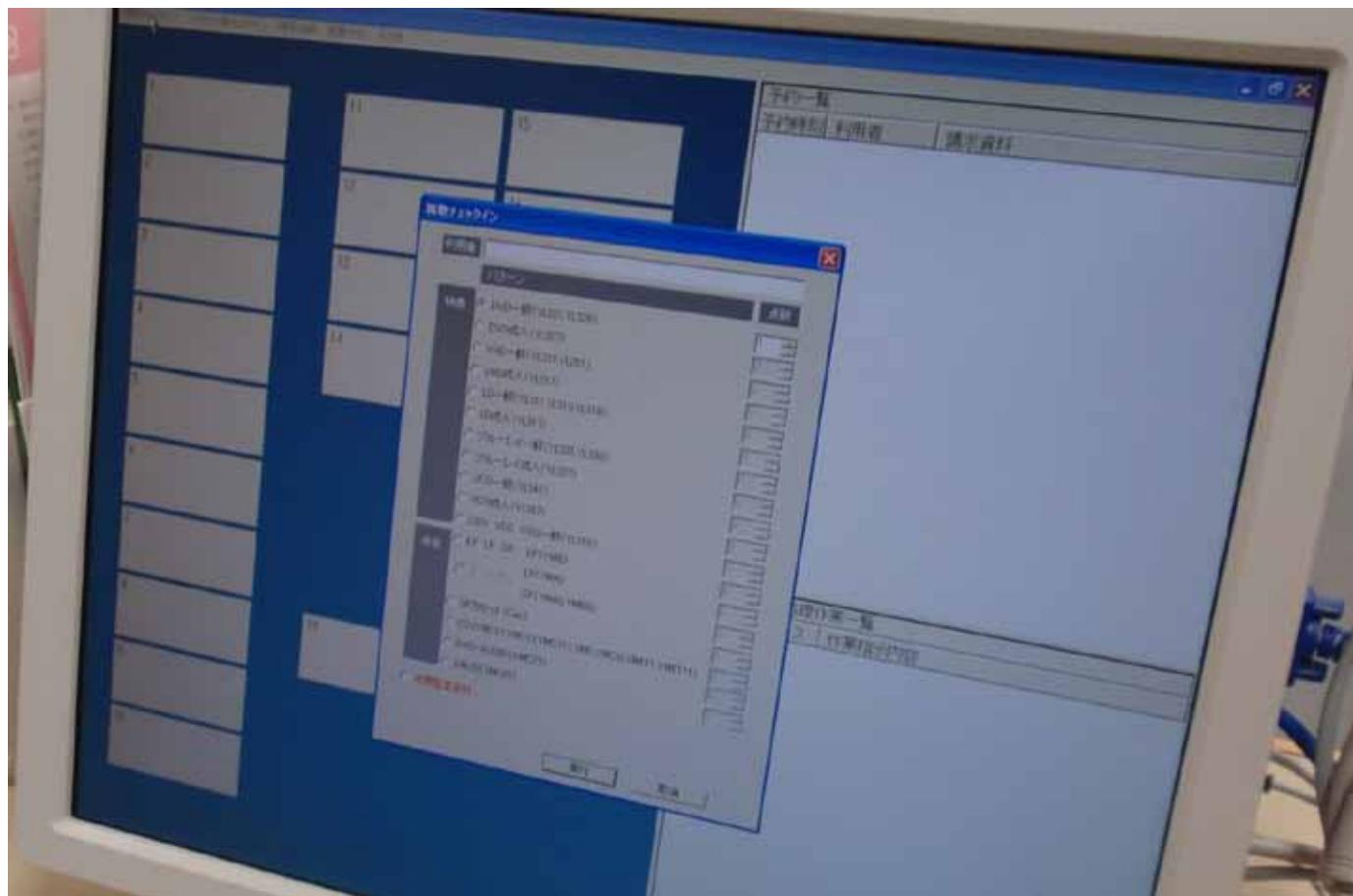
### 音楽・映像資料室カウンター



## 2. 利用提供の方法について

### 2.1. 閲覧提供システム

独自の「音楽・映像資料室閲覧システム」による  
閲覧管理（“音映チェックインシステム”）



# 2. 利用提供の方法について 「音楽・映像資料室閲覧システム」

## 視聴チェックイン

視聴チェックイン

利用者 E6334

パターン	点数
映像	
<input checked="" type="radio"/> DVD一般(YL321,YL328)	1
<input type="radio"/> DVD成人(YL327)	0
<input type="radio"/> VHS一般(YL211,YL251)	0
<input type="radio"/> VHS成人(YL217)	0
<input type="radio"/> LD一般(YL311,YL313,YL318)	0
<input type="radio"/> LD成人(YL317)	0
<input type="radio"/> ブルーレイ一般(YL331,YL338)	0
<input type="radio"/> ブルーレイ成人(YL337)	0
<input type="radio"/> VCD一般(YL341)	0
<input type="radio"/> VCD成人(YL347)	0
<input type="radio"/> CDV VSD CDG一般(YL315)	0
録音	
<input type="radio"/> EP LP SP EP(YMB)	0
<input type="checkbox"/> すべて色レ LP(YMA)	0
<input type="checkbox"/> SP(YMAS,YMBS)	0
<input type="radio"/> SPカセット(Cas)	0
<input type="radio"/> CD(YMC11,YMC13,YMC111,YMC,YMCB,YMK11,YMK111)	0
<input type="radio"/> DVD-AUDIO(YMC21)	0
<input type="radio"/> SACD(YMC91)	0

他閲覧室資料

実行 取消

## 視聴チェックインのブースを選択

視聴チェックイン ブース選択

利用者 E6334

チェックインブースを選択してください

1. レコード(針式) SACD/DVD-A	11. LD/DVD	15. VHS/DVD
2. レコード	12. LD/DVD	16. Blu-ray/DVD
3. レコード	13. LD/DVD	17. VHS/DVD
4. レコード	14. Blu-ray/DVD	18. VHS/DVD
5. カセット		
6. CD		
7. CD		
8. CD	19. ジャケット席	20. ジャケット席
9. CD		
10. CD		

実行 取消

## 2.1. 閲覧提供システム

再生機器はカウンターの作業室内で一括管理  
(針式プレーヤー、MDプレーヤーを除く)



## 2.1. 閲覧提供システム

職員が作業室内の再生機器に媒体をセット



## 2.1. 閲覧提供システム

視聴はカウンター職員が指定するブースで行う  
(全18席)



## 2.1. 閲覧提供システム

### 視聴ブース席



## 2.1. 閲覧提供システム

利用者は、視聴ブース席の液晶タッチパネルを通じて遠隔操作で資料を再生



- 曲選び、再生 / 停止等の指示
- ディスク反転、交換(アナログレコード等)が必要な場合は、タッチパネルから職員に要求

## 2.1. 閲覧提供システム

### システムによるメリット

- 利用者は媒体に触れることなく再生指示を行うことが可能
- 変質や損傷を受けやすい媒体の破損・汚損等を最小限に出来る  
(音声・映像記録メディアの不正コピーや音盤のすり替え等の防止にも効果)
- 視聴ブース席の管理機能
- 業務統計取得機能

## 2. 利用提供の方法について

補足

- 視聴、及びジャケット調査は、  
調査・研究目的の利用のみ  
(閲覧許可制)

 『閲覧許可申請書』の  
記入・提出が必要

資料保存のため

## 2. 利用提供の方法について

### 補足

#### 《利用資料数の制限

- 1日の利用は、視聴及びジャケット調査あわせて3回まで
- 1回に利用できる点数は、資料により異なる
- 再生機器が異なる資料は、同時に申し込むことはできない
- EP・LP・SP                    3点
- CD                                3点
- DVD/ Blu-ray/ LD / VHS    1点

# 音楽・映像資料室

## 各レコード会社の販売目録



## 2.2.再生機器と提供方法

### ・音声記録メディア



#### (1) アナログレコード

##### SPレコード

媒体変換済のカセットテープがある場合

☞ ダブルカセットデッキ

- 資料保存の観点からカセットで提供
- 利用者は「Cas - 」で始まる代替請求記号も  
請求票に記入の上、申請



カセットテープがない場合☞レコードプレーヤー

## 2.2.再生機器と提供方法

### SP、LP、EPレコード

非接触式レコードプレーヤー：

#### レーザターンテーブル(LT)

- レーザー光線で溝を読み取り、音を再生する機材
- 資料を痛めることが少ない

レコード針を使用すると、針との摩擦による摩耗が避けられず、盤面に傷を付ける可能性が高くなる。そのため、可能な限りレーザターンテーブルを使用。



## 2.2.再生機器と提供方法

SP、LP、EPレコード

針式レコードプレーヤー

- 反っているもの、歪んで使用できないもの
- ピクチャーレコード(絵が付いているレコード)
- カラーレコード

資料保存のため、  
針式の聴取は1回のみ



## 2.2.再生機器と提供方法

### レコード提供時の取扱い



- ・手袋着用
- ・盤面は除電ブラシで埃を掃ってからプレーヤーに

天然樹脂から作られたSPレコードは割れやすく、また、古いため劣化が進んでいるものもあるので、特に注意を要している。



## 2.2.再生機器と提供方法

### ・音声記録メディア

#### (2) フィルムレコード(ソノシート)

##### ☞ 針式レコードプレーヤー

(レーザーターンテーブルでは聴取できない)

- 柔らかく薄いため傷つきやすいので、注意を要する
- 現在は電子資料室で提供

##### ☞ 『閲覧許可申請書』が必要

但し、1960年代前半までのソノシートは利用不可

- ・特に初期のものは強度に不安あり
- ・再生が破損につながると判断されるものが多く存在する



## 2.2.再生機器と提供方法 ・音声記録メディア

### (3) カセットテープ

#### ☞ ダブルカセットデッキ



### 出版されたカセットテープ

☞ 現在は電子資料室で提供

☞ 同様に『閲覧許可申請書』が必要

但し、1980年以前のカセットテープは利用不可

- ・破損や劣化が次々発見
- ・これ以上の破損を防ぐため一律に利用不可



## 2.2.再生機器と提供方法

### ・音声記録メディア

#### (3) カセットテープ

#### ☞ ダブルカセットデッキ



#### 媒体変換済のカセットテープ

#### ・SPレコード

#### ・フィルモンレコード(フィルモン音帯)



## 2.2.再生機器と提供方法 ・音声記録メディア

### (4)CD

☞ CDオートマチックチェンジャー



### (5)MD

☞ ミニディスクデッキ

### (6) DVD-AUDIO、SACD

☞ DVDオーディオ・SACDプレーヤー

( Hybrid SACDはCDプレーヤーでの再生が可能。 )

## 2.2.再生機器と提供方法

### ・映像記録メディア

#### VHS / DVDプレーヤー

- VHS、DVD、VCDに対応

#### LD / DVDプレーヤー

- LD、DVD、CDG、CDV、VSDに対応



#### ブルーレイディスク / DVDプレーヤー

- BD、DVDに対応

### 3. 再生できないメディア - 音声記録メディア

「再生機器が無いため再生不可」の資料

(1) オープンリール 所蔵：約50点

- ・NDLでは、1964～1970年の間に刊行されたものを所蔵
- ・再生機器の生産終了



### 3. 再生できないメディア - 音声記録メディア

#### (2) フィルモンレコード(フィルモン音帯) 所蔵: 29点

- 形態は円盤状ではなく帯状。幅35mm、長さ約13mの音帯の両端をつなぎ合わせた、エンドレスに演奏可能なレコード。セルロイド製の音帯に約100本の溝を刻んで、音声記録されている。
- 1930年代後半に日本で開発・発売。
- SPレコードの録音時間が片面3分程度の時代に、30分以上の録音を可能にした画期的な音声記録メディア。



媒体変換したカセットテープで  
利用に供している(27タイトル中18タイトル)

### 3. 再生できないメディア - 音声記録メディア

#### (2) フィルモンレコード(フィルモン音帯)

- 当時、音声記録の中核をなしていたSPレコードでは実現できなかった長唄や義太夫等の一括録音が可能に。

音も良いと演奏者にも評判が高く、売れ行きは好調だったよう。

- 生産は日本フィルモン株式会社。  
昭和12(1937)年に設立、  
全120種、約50万本の生産を行ったが、  
同15(1940)年に会社は解散、  
工場も軍需工場へ転用され、  
フィルモンレコードは非常に短命に  
終わった。

『フィルモン音帯目録』  
【当館請求記号YM2-H684】



### 3. 再生できないメディア – 映像記録メディア

#### A. 再生機器を所蔵していないため、利用提供していないメディア

##### (1) VHS (PAL方式) 所蔵: 約26点

- 外国のVHS規格
- 資料は外国刊行(15点)の他、海外向けに作成された国内刊行(11点)

##### (2) UMD 所蔵: 55点

- ユニバーサルメディアディスク (Universal Media Disc) は、ソニーグループが開発した光ディスクの規格
- 事実上、プレイステーションポータブル専用のメディア

A. 再生機器を所蔵していないため、利用提供していないメディア

(3) VHD (Video High Density Disc) 所蔵：183点

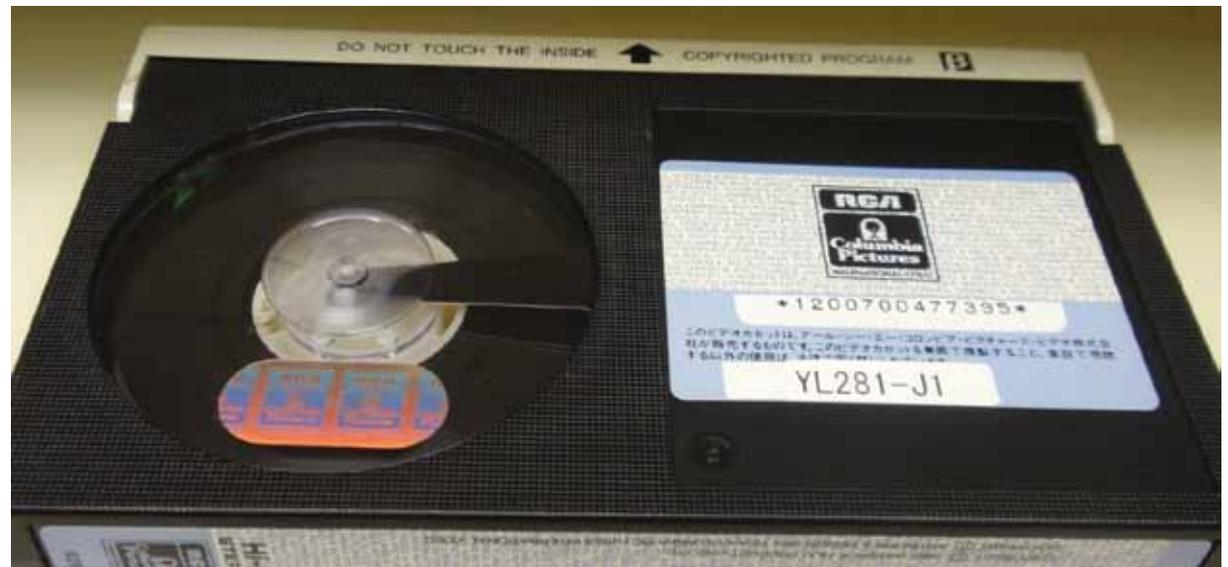
- 1980年代に発売
- 直径26cmの光ディスクが、傷や埃が付かないようにジャケットに納められている
- 所蔵資料のほとんどがカラオケ
- 再生機器の生産終了
- 当館所蔵の『世界民族音楽体系』  
同内容のLDあり



– B. 再生機器の保存のために利用提供していないメディア

(1) ビデオカセット：ベータビデオ(β) 所蔵：10点

- ソニーが販売していた家庭向けビデオ
- 再生機器の生産終了



– B. 再生機器の保存のために利用提供していないメディア

(2)ビデオカセット：U規格ビデオ 所蔵：123点

- 世界初の家庭用カセット式VTRの規格
- 1969年にソニー、松下電器、ビクター等が発表、1971年ソニーが“Uマチック”という商標で発売
- 再生機器の生産終了



## Ⅱ.. 保存のための取り組み ～アナログレコード～



### 0. 取り扱いについて

- 非接触式レコードプレーヤー：レーザターンテーブル(LT)の使用
- SPレコード( / フィルモンレコード)はメディア変換したカセットテープを利用提供
- 取扱い時は手袋を着用
- 針式レコードプレーヤーは資料保存のため、1回のみ聴取(再生する頻度を減らす工夫)

## Ⅱ.保存のための取り組み～アナログレコード～



### 1. 保管方法

SP、LPレコード

- ・収蔵はキャビネットに平置き。
- ・反りの防止を第一に考え各棚10枚を限度に。

(収蔵棚の設計は高さ約5cm、50段に区切っている。)

## Ⅱ.保存のための取り組み～アナログレコード～

### 1. 保管方法 SP、LPレコード

- 破損がある場合には、アーカイバルボードで作成した保存箱に入れる。



## Ⅱ.保存のための取り組み～アナログレコード～

### 1. 保管方法

SPレコードの歌詞カードは、レコード本体と別に保管。  
引き出し式キャビネットに会社別、発売番号順に並べ、  
カセット等出納の際に一緒に  
利用に供せるようにしている。



## Ⅱ.. 保存のための取り組み ～アナログレコード～

### 1. 保管方法

#### EPレコード

- 収蔵はキャビネットに縦置き。
- 30に区切った各棚に40枚を保管。



## Ⅱ.保存のための取り組み～アナログレコード～

### 2. 保管庫

- 温度22℃、相対湿度55%前後の一定条件を維持。
- 地下6階にあり、外気の影響を受けにくいいため、温度のコントロールがしやすい。



## Ⅱ. 保存のための取り組み～アナログレコード～

### 3. SPレコードのクリーニング作業

盤面のクリーニング

スリーブの交換



## Ⅱ.保存のための取り組み～アナログレコード～

### 3.レコードクリーニング

#### アーカイバルボードへの交換

Before



## Ⅱ. 保存のための取り組み～アナログレコード～

### 3. レコードクリーニング

#### アーカイバルボードへの交換

After

SPレコード終了後は、  
LP、EPに続ける予定  
(将来計画)。



# < SPレコード(おまけ) >



### Ⅲ. 今後の課題について

#### 1. 後世に残していくための「デジタル化」

##### (1) 資料の劣化と旧式化

- 音声・映像記録メディアは、紙資料よりも脆弱で修復が難しい。
- 一部の破損でも全体の再生が困難に。
- 当館でも既に劣化や破損により再生不可の媒体が存在。



当館では一部納本のため、媒体変換を行わない限り代替物はない。

### Ⅲ. 今後の課題について

#### 1. 後世に残していくための「デジタル化」

##### (1) 資料の劣化と旧式化

- 旧式メディア媒体の再生機器が次々に生産終了 / 入手不可。 ( ex. LDプレーヤー )
- ☞ 機器が故障したときに、部品や技術者が存在しなくなり、修理も不可能に。
- 生産中止前に予備機の入手確保に努めている。  
( が、限界あり。 )

### Ⅲ. 今後の課題について

#### 1. 後世に残していくための「デジタル化」

##### (1) 資料の劣化と旧式化

##### 対策

資料に収録されている情報を別の媒体に取り出して、保存していくこと。

☞ 資料のデジタル化の手法の確立と、その実現が急がれる。

・しかし、未着手の状態。音声・映像記録メディアの組織的なデジタル化はNDLにとって初めての取り組み。

・仕様の確定

・関係権利団体との調整

解決すべき課題が多い。

### Ⅲ. 今後の課題について

#### 1. 後世に残していくための「デジタル化」

##### (2) デジタル資料の長期利用保障

- 電子資料の場合、データフォーマットや再生環境である機器・OS・ソフトウェア等の変化に伴い、古い資料が再生できなくなる。
- システム更新により、閲覧不可となる資料も発生。

納本制度に基づいて収集した資料の長期的な利用が不可能になることは、日本の文化的財産の損失に。

- ☞ 将来的に、納本された電子資料の利用をどのように保障していくかについて、方針の策定が肝要。

### Ⅲ. 今後の課題について

## 2. 歴史的音源と当館SPレコードの重複

「歴史的音源」とは

- 歴史的音盤アーカイブ推進協議会 (HiRAC) がデジタル化したSP盤等の音源

国立国会図書館のデジタル化資料

検索  資料限定公開資料を含める  コレクション検索  テーマ検索  詳細条件で検索

国立国会図書館で収集・集積されているさまざまなデジタル化資料を検索・閲覧できるサービスです。

### 歴史的音源

歴史的音源とは、1900年代初頭～1950年代に国内で製造されたSP盤及び金網等音源に収録された音楽・音源約40万の音源を指します。平成21年度から歴史的音盤アーカイブ推進協議会 (HiRAC) により、歴史的音源のデジタル化を進めており、国立国会図書館でも、当該資料を様々な形で提供するとともに、著作権・著作権保護期間等を満たしたものについてインターネットへ公開します。



詳細検索へ

歴史的音源のタイトル一覧へ

インターネット公開分のみの一覧へ

古典様式資料(貴重書等)  図書  雑誌  歴史的音源  インターネット資料

国立国会図書館のデジタル化資料

春の海(一)

▼ 曲は情報  URL  フルスクリーン表示

曲情報

詳細コード表示にする

タイトル

春の海(一)

著者

宮城 道雄[作曲] [他]

出版者

ビクター

出版年月日

1930-12

著作権状況

宮城 道雄, 保護期間満了

吉田 晴風, 保護期間満了

詳細コード表示にする



00:13 / 03:07

50%

国立国会図書館ホームページ Copyright © 2011 National Diet Library. All Rights Reserved. サイトポリシー お問い合わせ

### Ⅲ. 今後の課題について

#### 2. 歴史的音源と当館SPレコードの重複

- 歴史的音源と、当室所管SPレコードは一部の音源が重複。

(4,000枚分が一致。他に、500音源程度が片面分のみ一致)

- しかし、OPAC上からは、歴史的音源に収録されているかどうか分からない。

- ☞ 重複調査を今後も行い、将来的に歴史的音源に誘導できるようにしたい。

## Ⅲ. 今後の課題について

### 3. アナログレコードの書誌情報

- 移行データの書誌情報が十分でない。
- 現時点ではOPACの内容細目が不十分。
- 代表曲以外の収録曲名、人名(作曲者 / 演奏者等)からの検索が殆どできない。
- サービスに支障があるが、データ数が膨大で実現の目途立たず。

☞ 書誌データの整備が必要。

# 参考URL

リサーチナビ「音楽・映像資料の紹介」

・ソノシート

[http://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/post-549.php](http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-549.php)

・フィルモン

[http://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/post-548.php](http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-548.php)

## デジタル化関連

・電子情報の長期利用保証に関する調査研究

(調査報告書、平成18年度～平成22年度調査総括報告書等)

[http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/preservation\\_02.html](http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/preservation_02.html)

・平成22年度の調査研究の内容

[http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/preservation\\_01\\_2010.html](http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/preservation_01_2010.html)

## 歴史的音源

<http://dl.ndl.go.jp/#music>